玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 5
R2・5・11

臨時休校 六月一日まで再延長

もう少し「STAY　HOME」！

みんなを待っている飛躍の像

当初、五月八日学校再開の予定が、学校の方から連絡があったように、臨時休校期間が六月一日まで延長され、六月二日再開に変更されました。

臨時休校期間も三ヶ月目に入り、もう家庭での生活も飽き、早く学校に行って、友だちと一緒に遊んだり、部活をしたいと思っている人も多いかと思います。しかし、そこは今、もう少し我慢して欲しいと。ようやく新型コロナウィルスの感染拡大も一時ほどではなくなり、一日の新規の感染者も少なくなってきてはいるが、まだまだ油断はできない状態です。もう少し「STAY HOME」で頑張れば収束が見えてくるはずです。辛いとは思いますが、みんなで乗り越えていきましょう。

もう少し「不要不急の外出」を控える

定期的に学区内を車で巡視している先生方に聞くと、本校の生徒に会うことはほとんどないという話を聞きます。それだけみなさんが不要不急の外出を控えていることが伝わってきます。六月二日に学校を再開させるためには、一人一人が意識して生活していくことが大切です。

本校のHPのチェックを毎日お願いします。

玉中ホームページ

休校中の今、家庭と学校をつなぐ役目を果たしている一つのツールがHP（ホームページ）です。学校では何か新たな情報があった場合はその都度学校のメールやHPでお知らせしています。また、先生たちから生徒の皆さんへのメッセージなども随時掲載しています。ぜひ毎日チェックをして欲しいと思います。

○○先生の「お薦めの一冊」

伊藤　由香子　先生
「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」
（ブレディみかこ著）

優等生の「ぼく」が通う元・底辺中学は、毎日が事件の連続。人種差別丸出しの美少年、ジェンダーに悩むサッカー小僧。時には貧富の差でギスギスしたり、アイデンティティに悩んだり。世界の縮図のような日常を、思春期真っ只中の息子とパンクな母ちゃんの著者は、ともに考え悩み乗り越えていく。落涙必至の等身大ノンフィクション。

藤岡　美月　先生
「モモ」
（ミヒャエル・エンデ著）

町はずれの円形劇場あるにまよいこんだ不思議な少女モモ。町の人たちはモモに話を聞いてもらうと、幸福な気もちになるのでした。そこへ、「時間どろぼう」の男たちの魔の手が忍び寄ります…。「時間」とは何かを問う、エンデの名作。

長島　与志美　先生
「プロジェクトX　地上最強のマシーン　F1への激闘」
（NHK出版）

「地上の戦闘機」と言われる究極マシーン・F1。四十年前、日本から初めて参戦。見事優勝を果たしたメーカーがあった。当時、ホンダはいまだ四輪市販車を一台も販売していない単なるバイクメーカー。F1は社長本田宗一郎の夢をかけた奇跡の挑戦だった。しかし道のりは厳しかった。バイク技術でつくるエンジンは、巨大でトラブル続き。エンジンと車体チームの確執。そのとき起死回生の作戦が・・・・。

新任の先生紹介

二年二・三組担任　○○　○○　先生

今年度、鉾田南中学校より家庭科の先生として玉中に転入されました。樽井先生は小さい頃から「人の役に立つ仕事に就きたい」と思い、看護師の道も考えたりもしたそうですが、先生という職業は一人の生徒の一生を左右する責任のある仕事にやりがいと魅力を感じ、この道を選んだそうです。最初は数学が好きだったので数学教師も考えましたが、小さい頃から「ものづくり」も好きで、母親とよくいろいろなものをつくっていました。その関係で大学では家庭科に目ざめ現在に至っています。

先生は以前、玉中に勤務され、今回が二回目の勤務となりました。最初に勤務したときは、ちょうど校舎が旧校舎から新校舎に変わるときで、引っ越しも経験しました。引っ越しは、とてつもなく大変で、何日もかけて行ったそうです。

あの当時と、現在の玉中生とを比較してみると、今の皆さんはしっかりしているということでした。あいさつや受け答えもしっかりとした態度ででき、授業中も一生懸命取り組んでいる生徒が多い、そんな姿を見て感動したそうです。

先生の趣味は「観劇」です。昔は「劇団四季」のミュージカルなどもよくみたそうです。ミュージカルのことだったら何でも聞いて下さい。他にも家庭科ということもあり、料理をつくったりすることも好きです。現在は休校中ということで、時間にも多少余裕があるので、新しいメニューにも挑戦しています。

臨時休校が延長されたこともあり、まだ皆さんとふれ合う機会も多くありませんが、学校が再開されたときには、授業や休み時間などで遠慮なく声をかけてください。

編集後記

「今をプラスにいかす」

新型コロナウィルスの感染拡大で学校が休校となってから2ヶ月が過ぎ、3ヶ月目に入った。このまま家にずっといたら子どもはどうなってしまうのだろうと心配している保護者も多いかと思う。しかし、この機会を子どもの成長にとって大事な時間と捉えると子どもの見方も変わってくるのではないだろうか。校則廃止の中学校で知られる東京・世田谷区立桜丘中学校前校長の西郷孝彦さんは「子どもにとって、この“何もしていない時間”こそが、成長のために必要な時間なのです。お子さんが、勉強以外に打ち込める好きなことを発見したら、大成功です。ゲームをやりすぎているんじゃないか、という心配もわかりますが、やりつくせばいずれ飽きます。子どもたちは、自分の不安をゲームで埋めているともいえる。そのことに気づいて、大人はただ見守ってあげていれば大丈夫。彼らには、親から何も言われずとも成長する力があります。

アメリカの児童文学作家のE・L・カニグズバーグは、『ベーグル・チームの作戦』の中で、《（成長の大部分は）ひとりでいる時に起こる》と書いています」（NEWSポストセブンより引用）と言っている。

「学校に行かない時間」とは、言い換えれば「子どもが自分の頭でものを考える時間」でもある。この時間は子どもにとって、これからの人生にとって必要な時間と捉えれば、ゲームをしている姿を見てもイライラしなくなるのではないだろうか。

（文責：小野口　吉政）